

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立

石崎小学校

学級数

3

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

「のびゆく石崎の子～すすんで つづけて 元気よく～」

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

1 取組のきっかけ

昨年度から、校内研修や職員会議の時間を利用して、「家庭学習の進め方」「補充学習」「長期休業中の過ごし方」「テストの受け方について」「教室環境」など、学力向上を支える側面となる部分に視点をあてて共通理解を深めてきた。

本校での過去の学力向上に向けた取組は、教材研究・授業研究に焦点を当てればよいという考え方であった。しかし、最近、「学力を支える土台と側面」というキーワードが重視されている。本校では、従来の教材研究・授業研究といった部分からのアプローチの他に、側面的なアプローチも試みている。

2 取組の位置付け

教務が中心となり、「石崎小学校学力向上プラン」として企画し、取組を行っている。

3 取組の方法

昨年度から今年度にかけて、取り組んだ「石崎小学校学力向上プラン」の内容です。

(1) 効果のある家庭学習

「効果のある正しい家庭学習」の理論研修を行い、学校全体で同じ方法で取り組ませる。

(2) 教室掲示について

担任に一任されていた教室掲示から、学力向上を意識した教室掲示に学校全体で取り組む。

(3) 授業と朝学習・補充学習をリンクさせた取組

朝学習では教科書の確認テストを、補充学習では漢字の確認テストを実施している。

(4) 保護者の意識を高める懇談会

長期休業中の親の意識を育て、子どもが伸びる教育環境の情報提供を行う。

(5) テストの受け方をパターン化する

授業で活用している学習過程のテストバージョンを作成して、テストを受けさせる。

(6) 秋田県の小学校の事例研修

「学習の進め方」の資料を校内研修で学習し、授業に還元できるようにしている。

(7) 学力向上につながる自由研究について

自分でテーマを持って進める課題解決学習の方法を学校全体で親と子どもたちに提示している。

(8) これからの道徳教育について

新学習指導要領で重視・重点化されている内容を学習し、道徳の授業の交流を学期ごとに行う。

取組の成果と課題等

○ 取組の成果

本校では、オール北海道で目指す第1期の重点目標である国語科の「書くこと」、算数科の「数と計算」について、校内研修や職員会議の時間を利用して学習会や学力向上のための様々な取組を行ってきた。例えば、「家庭学習の進め方」「補充学習」「長期休業中の過ごし方」「テストの受け方について」「教室環境」などである。本校での過去の学力向上に向けた取組は、教材研究・授業研究に焦点をあてればよいという考え方であった。しかし、最近、「学力を支える土台と側面」というキーワードが重視されている。本校では、従来の教材研究・授業研究といった部分からのアプローチの他に、側面的なアプローチも試みも行ってきた。

今年度にかけて、取り組んだ「石崎小学校学力向上プラン」の内容です。

- (1) 効果のある家庭学習
成果→「効果のある正しい家庭学習」の理論研修を行い、学校全体で同じ方法で取り組ませた。
- (2) 教室掲示について
成果→担任に一任されていた教室掲示から、学力向上を意識した教室掲示に学校全体で取り組むことができた。
- (3) 授業と朝学習・補充学習をリンクさせた取組
成果→朝学習では教科書の確認テストを、補充学習では漢字の確認テストを実施した。
- (4) 保護者の意識を高める懇談会
成果→長期休業中の親の意識を育て、子どもが伸びる教育環境の情報提供を行った。
- (5) テストの受け方をパターン化する
成果→授業で活用している学習過程のテストバージョンを作成して、テストを受けさせた。
- (6) 秋田県の小学校の事例研修
成果→「学習の進め方」の資料を校内研修で学習し、授業に還元できるようにした。
- (7) 学力向上につながる自由研究について
成果→自分でテーマを持って進める課題解決学習の方法を学校全体で親と子どもたちに提示した。
- (8) 書く力を育てる自由研究について
成果→自由研究についての研修会を開き、それをもとに共通の方法で子どもに提示した。また、保護者にも懇談会で発信し、休み明けには「全校自由研究発表会」を新設した。
- (9) 日課表の補充学習の位置づけ、長期休業中の自由学習クラブの開催
成果→放課後に15分間の補充学習を行い、「書くこと」「数と計算」領域の復習を行った。また、長期休業中には、4日間の補充学習を行っている。

これらの取組を全体懇談会・地域公開授業・自主公開研究会という形で発信するようになった。「どんな教育活動をしているのかがわからない」という閉鎖的な声が以前は、保護者・地域から多かったが、現在は、「こんなことまでやってくれているんだ」という声が広がりつつある。また、相乗効果として、子どもたちの学力アップも各種の検査等からも報告されている。

次年度の学力向上の取組予定としては、

- ① 漢字・計算コンクールという学力に関する全校的なイベントの実施
→学期に1回行い、児童の学力向上を数値化して、見える形で子どもの変容をとらえる。
- ② 家庭学習を発展させて、「読書週間」「ノーゲーム週間」といった生活習慣との連動を進める。
- ③ 「チャレンジテスト」「全国学力状況調査」の正答率が低い問題と同じパターンの問題を補充学習で取り組む。
などの取り組みを予定している。